

# 10年後のまちづくりに活かす若者の声

栃木市

栃木市総合計画課 森下義浩 石橋一宏

## 背景

栃木市は、平成22年に栃木市・大平町・藤岡町・都賀町の1市3町が合併した。その後、平成23年に西方町、平成26年には岩舟町との合併を経て現在に至る。このような多くの合併により、都市構造の大きな変化が課題となっている（図1）。

そこで栃木市は課題に対して、栃木市総合計画を策定し様々な施策を実施している。そしてそれらの施策に市民の意見を取り入れるために、行政の外部から施策を評価してもらう取り組みを行っている。しかし、栃木市はもっと若者の声が市政に活かされることを目指している。

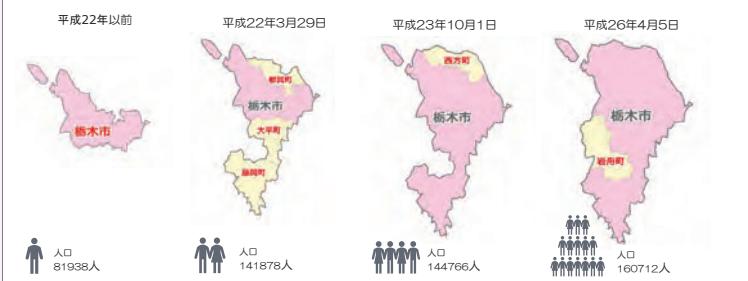


図1 栃木市の合併による都市構造の変化

## 方法

調査目的を達成するために、アンケート調査を行った。

アンケート概要を以下に記す。

方法：Googleフォームによるアンケートで11個の質問に回答してもらう。実際に80人から回答を得た。

対象：大学生・高校生

場所：オープンキャンパス（陽東キャンパス）

※若者の意見を行政に取り入れるというテーマなので

住まいは栃木市には限らないようにした。

期間：10/26

## 分析結果

アンケート調査の結果は以下のようになった。（図3）



図3 アンケート調査結果

自分の住んでいる市に対して意見や要望を持っている人は全体の約40%であるのに対し、実際に要望を伝えたことがある人は7.3%しかいなかった。実際に意見・要望を伝えた際に、伝えた方法としては市長へのメール、FacebookといったSNSを活用した人が多く、直接伝えたという意見はなかった。

これらの結果は「行政に対する若者の意見」という観点においては栃木市在住の人もそれ以外の地域在住の人も関係ないと考えられる。したがって今回の調査結果はすべて栃木市にも適用できるとする。

これらの調査からSNSで行政に対して意見を伝える方法が多かった。そこで、若者が多く利用するSNS

(Facebook, Twitter, HP, etc...) で、我々大学生が若者向けに栃木市の情報を発信し、意見を集めることを考へる。集めた意見を市役所に提出し、若者の声を届け、反映させていきたいと考えている。

10班 建築都市デザイン学科 小池千慧 安田友奈  
社会基盤デザイン学科 佐藤有起 和田智也  
コミュニティデザイン学科 青柳憲太郎 小堀朝陽

## 目的

7月に、栃木市総合計画市民会議へ参加した（図2）。

ここで栃木市市民会議とは、市民を代表する栃木市市民会議委員の方が栃木市自治基本条例の検証、栃木市総合計画等の進捗状況についての検証の他、市長の諮問に応じ答申を行うものである。



図2 市民会議に参加した様子

しかしここに参加した市民は年配者が多く、若者の入る余地がない様子であった。

そこで、

「どうしたら若者の意見を行政に届けることができるのか」ということを調査目的とした。

## 提案

アンケート調査を受けて、若者が意見を交わしやすいSNS「Twitter」を利用して若者の意見を集め、私たちが集めた意見を市役所に直接伝えて回答を開示するアカウントを作成・運用することを提案する。（図4）

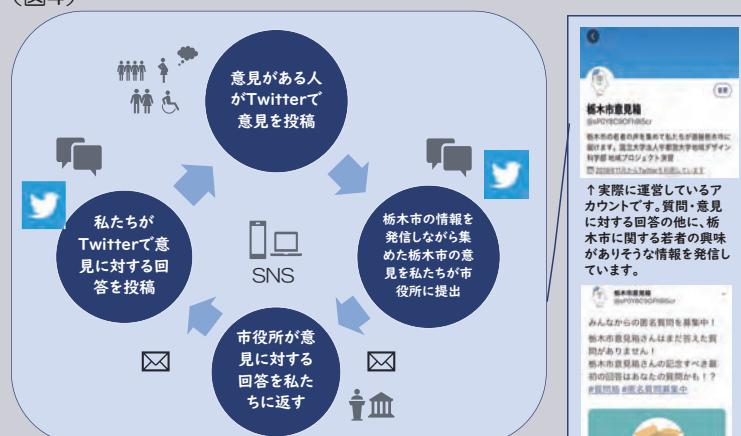


図4 Twitterを利用した意見集めの模式図

実際にTwitterを運用したところ、以下のようないい意見が若者を中心に意見箱に投稿された。質問と回答を以下に記す。回答はTwitterでも載せている。

